糖尿病・代謝・内分泌内科プログラム１

プログラム名：甲状腺疾患の診断と治療

目　　標：

甲状腺疾患は、内科、外科、耳鼻科等の多科のわたる疾患領域であり、医学部教育においても疾患ごとにそれぞれの科で教育が行われる傾向が強い。実際の日常診療において必要となる複数科にまたがる知識、臨床的技能を習得する。

１）甲状腺の触診：正常甲状腺、び漫性および結節性甲状腺を触知し、疑われる疾患をあげる事ができるようになる。

２）甲状腺血液検査の理解：甲状腺に関連する検査は保険点数が低く無い上、同じ臨床的意味を持つ検査が複数存在する。どの検査をオーダーし、結果をどのように解釈するか、症例ごとに判断できる様になる。

３）甲状腺エコーの習得：表在臓器である甲状腺はエコーによる検査が絶大なる力を発揮する。しかし、臨床的に意味の無い大きな腫瘍から数㎜の癌までエコー像は様々である。エコーの手技、読影、検査の適応の判断まで理解の上、実際に施行できる様になる。

４）細胞診の習得：甲状腺癌の診断には吸引針細胞診がきわめて有効である。実際の手技、結果の解釈（必要なら顕微鏡で細胞が読めるまで）を理解し、希望者は実際の手技を習得する。

５）機能性甲状腺疾患の治療：バセドウ病、橋本病に伴うホルモン異常の治療を理解し、実際に加療が出来る様になる。

６）他科との連携の理解：外科（甲状腺腫瘍）、放射線科（放射線治療）、眼科（バセドウ眼症の治療）等の他科の助けを必要とする状況の判断が出来る様になる。また、患者さんからの相談にコンセンサスの得られている範囲の解答は出来る様な知識を身につける。

方　　略：

１）期間・研修開始時期：３ヶ月（12週間）・自由に設定できる

２）指 導 医：鈴木　佐和子（講師、内分泌代謝科専門医・指導医）

３）募集定員：同一時期に２名まで

４）研修内容

① 甲状腺専門外来にて、患者さんの甲状腺を触診して頂き、カルテにあるエコー像と触診所見を比較、正確な触知が出来ているかフィードバックする。

② 指導医より甲状腺関連血液検査の意義等について講義を受け、モデル症例にどの様な検査をオーダーするかディスイカッションを行う。その後、外来の症例で実際にどのように検査がオーダーされているか見学する。

③ 甲状腺エコーの基礎知識、エコー解剖等について講義を受けた後、実際のエコー検査を見学。理解が出来たところで、実際にエコーを行ってもらい見落としの有無や所見の正確さを指導医よりコメントを得る。

④ 甲状腺細胞診（触診下、エコー下とも）を見学し手技について学ぶ。合併症とその対処について指導医から講義を受ける。

⑤ 甲状腺疾患の薬物治療について講義を受け、モデル症例について実際の処方を考え指導医とディスカッションする。

⑥　日本甲状腺学会、アメリカ甲状腺学会等のガイドラインを始め、最新の情報の入手方法等について講義を受ける。

5）スケジュール：別表に記載

評　　価：

1）ＭＣＱ（プレ・ポストテスト形式）

2）ポートフォリオ

3）実地試験

修了認定：

評価基準を満たしたものにコース修了証書を授与する。